

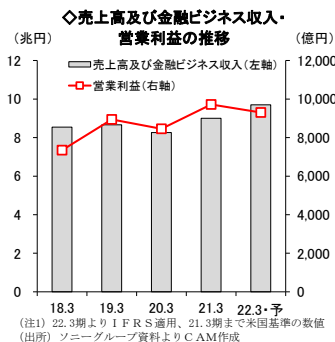
# 企業ニュース ソニーグループ

(東証1部：6758) <http://www.sony.com/ja/>

作成者：村上大志

## クリエイティブエンタテインメントカンパニー

1946年設立。エンターテインメント、エレクトロニクス、金融の3つの領域で事業展開する日本を代表する企業。2020年11月に、P S (プレイステーション) の次世代機「P S 5」を発売。3月末までの累計販売台数は780万台と、目標として掲げた「P S 4」の初年度の販売台数760万台以上を達成した。今期の累計販売台数の目標は1,480万台以上としている。2021年4月にソニーから現社名に商号変更した。21.3期のセグメント別売上高及び営業収入構成比はG & N S (ゲーム&ネットワークサービス) 29%、音楽10%、映画8%、E P & S (エレクトロニクスプロダクツ&ソリューション) 21%、I & S S (イメージング&センシング・ソリューション) 11%、金融19%、その他2%。



### E P & S が業績をけん引

22.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は売上高及び金融ビジネス収入が2兆2,568億円、前年同月比15%増、営業利益が2,801億円、同26%増。第1四半期の実績としてはいずれも過去最高となった。テレビやデジタルカメラが好調だったE P & Sが業績をけん引、有料会員制のストリーミングサービスからの収入が増加した音楽も好調だった。一方、G & N Sは追加のダウンロードコンテンツを含む自社制作以外のゲームソフトウェアの販売減などで大幅な減益となった。

22.3期の会社計画は売上高及び金融ビジネス収入が9兆7,000億円、前期比8%増、営業利益が9,800億円、同3%増。音楽やE P & S、映画の増益を見込むことから4月予想の通期見直しから営業利益を500億円上方修正した。テレビは高付加価値・大画面モデルへの販売シフトが奏功しており、デジタルカメラはコロナ禍からの需要回復に加え高機能・高性能商品の販売が好調なことから、E P & Sの業績拡大が期待できよう。I & S Sでは、CMOSイメージセンサーの顧客基盤拡大によりファーウェイ向けの出荷減を補い、数量ベースで市場シェアが回復している模様。G & N Sでは、自社タイトルのヒットや巣ごもり特需のあった前年比では減少しているが、2019年比では着実に増加している。P S 5の販売拡大などで持続的な成長に期待したい。

### [株価動向・投資判断]

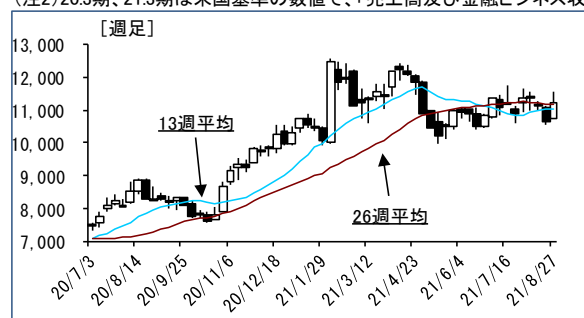
ゲーム関連会社の買収を発表するなど成長投資が加速しており、事業規模拡大が期待される。

#### <6758 ソニーG 業績:IFRS基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高及び金融ビジネス収入	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	8,259,885 (▲5)	845,459 (▲5)	799,450 (▲21)	582,191 (▲36)	471.6	45.00
21.3	8,999,360 (9)	971,865 (15)	1,192,370 (49)	1,171,776 (101)	952.3	55.00
22.3 予	9,700,000 (8)	980,000 (3)	955,000 (▲4)	700,000 (▲32)	—	未定

(注1)22.3期よりIFRSを任意適用。22.3期の伸び率は21.3期にIFRSを適用したと仮定して算出した数値  
(注2)20.3期、21.3期は米国基準の数値で、「売上高及び金融ビジネス収入」は「売上高及び営業収入」



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2021/8/27)	11,230 円
年初来高値 (高値日)	12,545 円 (21/2/5)
同 安値 (安値日)	9,915 円 (21/1/28)
予想 P E R (22.3 予)	— 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	5,569.4 円
P B R	2.02 倍
予想配当利回り	— %
(1株当たり配当金 未定)	
R O E (21.3)	24.2 %
発行済み株式数	126,106 万株